

平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月2日

上場取引所 東

上場会社名 アクシアル リテイリング株式会社
 コード番号 8255 URL <http://www.axial-r.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役執行役員
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月10日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 原 和彦
 (氏名) 山岸 豊後

TEL 0258-66-6711

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	168,941	5.2	7,158	35.1	7,204	34.9	4,696	44.8
27年3月期第3四半期	160,554	32.4	5,299	33.6	5,338	32.4	3,243	37.2

(注)包括利益 28年3月期第3四半期 4,774百万円 (34.1%) 27年3月期第3四半期 3,560百万円 (44.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	201.18	—
27年3月期第3四半期	138.96	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第3四半期	96,482	45,671	47.3	1,956.54
27年3月期	92,557	41,832	45.2	1,792.05

(参考)自己資本 28年3月期第3四半期 45,671百万円 27年3月期 41,832百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	15.00	—	25.00	40.00
28年3月期	—	15.00	—		
28年3月期(予想)				33.00	48.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	218,000	2.5	6,800	2.0	6,900	1.8	3,800	15.3	162.79

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細につきましては、この四半期決算短信【添付資料】7ページ「2 サマリー情報(注記事項)に関する情報 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期3Q	23,388,039 株	27年3月期	23,388,039 株
28年3月期3Q	44,960 株	27年3月期	44,670 株
28年3月期3Q	23,343,243 株	27年3月期3Q	23,343,547 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

この四半期決算短信に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、この四半期決算短信【添付資料】5ページ「1 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

目次

	頁
1 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2 サマリー情報（注記事項）に関する事項	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	7
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	7
3 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
(四半期連結損益計算書)	10
(四半期連結包括利益計算書)	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(4) 継続企業の前提に関する事項	13
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13
(6) セグメント情報等	14
4 補足情報	15
(1) 生産、受注及び販売の状況	15

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。

なお、将来に関する事項につきましては、不確実性を有しており、将来生じる結果と異なる可能性がありますので、記載しております事項に対する判断は、以下記載事項及び本項目以外の記載内容も合わせて慎重に行われる必要があります。

1 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用関連指標や企業収益など全般的には向上しているものの、地方経済への波及や個人消費の回復には十分に達していない状況となっております。

このような状況において、当第3四半期連結累計期間における当社グループの連結経営成績は、売上高が1,689億41百万円（前年同期比5.2%増）、営業利益が71億58百万円（前年同期比35.1%増）、経常利益が72億4百万円（前年同期比34.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益が46億96百万円（前年同期比44.8%増）となり、各数値はいずれも過去最高となりました。また、1株当たり四半期純利益は201円18銭となりました。

売上高、営業利益につきましては、以下に記載いたしますセグメント区分ごとの要因により変動しております。経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、営業利益の増加により増加しております。

当第3四半期連結累計期間における各セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。なお、各セグメントの業績値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

① スーパーマーケット (全般)

当第3四半期累計期間の売上高は、前年同期における消費税増税後の消費減退の反動もあり、伸長いたしました。

しかし、当社グループを取り巻く経済環境は楽観できる状況にはなく、客単価は前年同期に比べ全店で1.9%増加し、一品単価は前年同期に比べ全店で2.5%増加した反面、買上点数は前年同期に比べ全店で0.6%減少しております。これは、物価上昇や社会保険料の個人負担増加等により個人の実質可処分所得が減少し、個人消費が力強さに欠けている表れと考えております。

このような厳しい販売環境において、当社グループでは、徹底的な無駄の排除と効率的な事業運営に取り組むことで、お客様にご支持をいただける商品の品質・価格、サービスを実現する原資を確保し、他社との差別化を図っております。

この結果、当第3四半期連結累計期間におきましては、客数が前年同期に比べ全店で3.5%増加し、既存店では前年同期とほぼ同様に維持することができました。

(商品政策)

春季につきましては、生鮮商品の全般的な相場高が続き、販売価格は高止まりして販売数量は伸び悩みましたが、季節商品につきましては、新たな産地・商品の開拓や商品づくりの向上に努め、販売実績は伸長いたしました。

夏季につきましては、猛暑となりましたが残暑は短く、激しい環境変化に即した売場提案を行い、お客様のご要望にお応えできるよう努めました。

秋季につきましては、穏やかな天候が続いたことから、お客様がご来店しやすい環境となり客数が増加した反面、季節商材は鈍い動きとなりました。

このような状況において、生活スタイルの変化を踏まえ、値ごろ感、即食性、おいしさ等を意識し、普段使いの商品についてご満足いただける品質を圧倒的な低価格で実現した「Power Price」商品の品種拡大、当社グループならではの名物商品の育成やプライベートブランド商品の開発を拡大し、ご好評を得ることができました。

(販売政策)

近年導入した自動発注システムの活用範囲を拡大し、品切れや店舗作業の削減を図るとともに、従来の作業を新たな作業に振りかえ、適正活用することで売場状態やサービスレベルの向上を図っております。

季節催事に関しては、テーマを明確にして、商品の良さを知っていただく提案を工夫して積極的に行うことで、ご好評を得ることができました。

また、商品の安全性確保に関しては、社内ルールを強化し、安全・安心な商品の提供に努めました。
これらの結果、商品販売の売上総利益率は前年同期に比べ0.3ポイント増加し25.3%となりました。

(コスト・コントロール)

原信ナルス、フレッセイが統合して以来進めてきた当社グループ全体での諸経費の見直し、共有、共同調達等の取り組みは、特に両社に共通する商品、資材、その他共通経費等でコスト削減効果が大きく表れるようになってきました。

また、環境に配慮した様々な取り組みや近年進めている設備の省エネルギー化が功を奏し、原油価格の下落も影響して、関連諸経費の削減につながりました。

この結果、スーパーマーケット事業の営業利益率は、前年同期に比べ0.9ポイント増加し4.0%となりました。また、連結全体の営業利益率は、前年同期に比べ0.9ポイント増加し4.2%となりました。

(出店・退店等)

出店につきましては、原信女池店（9月・新潟県新潟市・売場面積2,086㎡）、フレッセイ榛東新井店（9月・群馬県北群馬郡・売場面積1,746㎡）、フレッセイ沼田恩田店（10月・群馬県沼田市・売場面積1,745㎡）の3店舗を新設いたしました。

改装につきましては、原信川崎店（10月・新潟県長岡市・売場面積2,363㎡）、フレッセイ佐野店（11月・栃木県佐野市・売場面積2,126㎡）の2店舗について実施いたしました。

退店につきましては、フィットネスクラブのフィットミー大根店（4月・群馬県前橋市）を閉鎖いたしました。

(新たなマーチャндаイジングへ向けた取り組み)

商品の調達からお客様へ商品をご提供するために必要なすべての活動について、新たなあり方を模索する実験を、原信川崎店の改装を機に開始いたしました。

従来の商品群により構成された売場から、多様化するお客様の生活スタイルに適応した食卓シーンをご提案する売場構成に変更し、楽しさあふれるお買い物体験をしていただけるよう様々な取り組みを試みています。

例えば、お客様へ店舗の活気が伝わりお客様とのコミュニケーションが深まるような売場設計、新たな製法やご提供方法にこだわった商品の取り扱い、専門店にも引けを取らないこだわりの商品やブランド化を図った商品の品ぞろえ、普段使いの商品の徹底的な価格訴求等、その取り組みは多岐にわたります。

これら個々の取り組みはまだ実験段階ですが、良好な結果が得られたものについては、今後、その導入店舗を拡大してまいりたいと考えております。

(業績)

当第3四半期連結累計期間の営業状況を示すと以下のとおりであります。

項目		当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	前年同期比
店舗数	スーパーマーケット	127店舗	3店舗増
	100円ショップ	6店舗	増減なし
	フィットネスクラブ	1店舗	1店舗減
店舗売上高	全店	159,135百万円	105.4%
	既存店	152,857百万円	102.0%
来店客数	全店	8,157万人	103.5%
	既存店	7,835万人	100.2%
買上点数	全店	10.64点	99.4%
客単価	全店	1,951円	101.9%

- (注) 1 店舗売上高、来店客数、買上点数、客単価は、スーパーマーケット店舗のみの数値であります。
2 店舗売上高及び客単価に消費税等は含まれておりません。
3 店舗数は、当第3四半期連結会計期間末現在の設置店舗数であります。
4 既存店は、店舗開設より満13か月以上を経過した店舗であります。
5 買上点数は、お客様一人当たりが一回のご来店でお買い上げになった商品数の平均であります。
6 客単価は、お客様一人当たりが一回のご来店でお買い上げになった金額の平均であります。
7 前年同期比は、各月の比率の平均値であります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるスーパーマーケット事業の売上高は1,678億27百万円（前年同期比5.3%増）、営業利益は67億28百万円（前年同期比37.4%増）となりました。

② その他

(清掃事業)

外部顧客向けの販売は、微減いたしました。一方、スーパーマーケット事業向けの販売は、請負先の増加に伴い増加いたしました。この結果、売上高は前年同期に比べ1.9%、営業利益は前年同期に比べ6.0%それぞれ増加いたしました。

(情報処理事業)

外部顧客向けの販売は、当社グループ内部の大型システム案件に注力した反動で減少いたしました。また、スーパーマーケット事業向けの販売は、情報機器の更新需要により増加いたしました。この結果、売上高は前年同期に比べ3.6%増加いたしました。営業利益は売上総利益率の低下により前年同期に比べ15.2%減少いたしました。

(印刷事業)

外部顧客向けの販売は、新規顧客の開拓や受注件数の増加に努めたことにより増加いたしました。一方、スーパーマーケット事業向けの販売は、チラシ受注の減少により減少いたしました。この結果、売上高は前年同期に比べ1.0%減少し、営業利益は原材料費の高騰により前年同期に比べ29.1%減少いたしました。

(運輸事業)

外部顧客向けの販売は、取扱い物量の増加により増加いたしました。一方、スーパーマーケット事業向けの販売は、納入資材の減少により減少いたしました。この結果、売上高は前年同期に比べ1.8%減少いたしました。営業利益は諸経費の減少により前年同期に比べ17.7%増加いたしました。

(自動車販売事業)

外部顧客向けの販売は、新車販売の伸び悩みにより減少いたしました。一方、スーパーマーケット事業向けの販売は、車両の更新需要により増加いたしました。この結果、売上高は前年同期に比べ7.2%減少し、売上総利益率の低下もあり若干の営業損失を計上するに至りました。

(業績)

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるその他の事業の売上高は48億55百万円(前年同期比0.3%減)、営業利益は4億50百万円(前年同期比9.6%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

当第3四半期連結会計期間末における連結財政状態は、総資産が前連結会計年度末に比べ39億25百万円増加し964億82百万円、総負債が前連結会計年度末に比べ86百万円増加し508億10百万円、純資産が前連結会計年度末に比べ38億39百万円増加し456億71百万円となりました。また、1株当たり純資産は1,956円54銭となりました。

当第3四半期連結会計期間末における各項目別の内容を示すと、次のとおりであります。

(総資産)

流動資産は261億80百万円となり、前連結会計年度末に比べ18億69百万円増加いたしました。これは主に、年末の金融機関休業に伴う仕入債務の未決済残高増加の反動で、現金及び預金が前連結会計年度末に比べ11億63百万円増加したことによるものであります。なお、流動資産の構成比は前連結会計年度末に比べ0.8ポイント増加し27.1%となりました。

固定資産は703億1百万円となり、前連結会計年度末に比べ20億56百万円増加いたしました。その内容は次のとおりであり、固定資産の構成比は前連結会計年度末に比べ0.8ポイント減少し72.9%となりました。

有形固定資産は、534億35百万円となり前連結会計年度末に比べ20億14百万円増加いたしました。これは主に、新規出店店舗及び次期竣工予定の物流センターに係る設備投資によるものであります。

無形固定資産は、18億8百万円となり前連結会計年度末に比べ2億40百万円増加いたしました。これは主に、ソフトウェアの増加によるものであります。

投資その他の資産は、150億58百万円となり前連結会計年度末に比べ1億98百万円減少いたしました。これは主に、敷金及び保証金の回収によるものであります。

(総負債)

流動負債は323億87百万円となり、前連結会計年度末に比べ31億44百万円増加いたしました。これは主に、年末の金融機関休業に伴う仕入債務の未決済残高増加によるものであります。なお、流動負債の構成比は前連結会計年度末に比べ2.0ポイント増加し33.6%となりました。

固定負債は184億23百万円となり、前連結会計年度末に比べ30億58百万円減少いたしました。これは主に、長期有利子負債の減少によるものであります。なお、固定負債の構成比は前連結会計年度末に比べ4.1ポイント減少し19.1%となりました。

(純資産)

株主資本は438億74百万円となり、前連結会計年度末に比べ37億61百万円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益46億96百万円の計上と剰余金の配当9億33百万円によるものであります。

その他の包括利益累計額は17億97百万円となり、前連結会計年度末に比べ77百万円増加いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金の増加によるものであります。

なお、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ2.1ポイント増加し47.3%となりました。

② キャッシュ・フロー

当第3四半期連結会計期間末における連結キャッシュ・フローは、現金及び現金同等物（以下、「資金」といいます。）が前連結会計年度末に比べ11億63百万円増加し133億74百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フロー別の状況を示すと、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は99億59百万円となり、前年同期に比べ2億92百万円増加（前年同期比3.0%増）いたしました。

これは主に、経常利益の増加によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は44億33百万円となり、前年同期に比べ7億76百万円減少（前年同期比14.9%減）いたしました。

これは主に、前年同期においては、新設4店舗、移転1店舗及び改装1店舗に係る支出を行っていたものの、当第3四半期連結累計期間においては、新設3店舗及び改装2店舗に係る支出であったため、有形固定資産の取得による支出が前年同期に比べ6億19百万円減少（前年同期比11.7%減）したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は43億62百万円となり、前年同期に比べ41億85百万円増加（前年同期比2,371.2%増）いたしました。

これは主に、有利子負債について、前年同期においては増加した反面、当第3四半期累計期間においては大幅に減少したためであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

【通期の業績予想値】

売上高2,180億円（前年同期比2.5%増）、営業利益68億円（前年同期比2.0%増）、経常利益69億円（前年同期比1.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益38億円（前年同期比15.3%増）を見込んでおります。

【上記予想値の前提条件】

売上高につきましては、主たる事業であるスーパーマーケット事業において、競合状況の変化等を踏まえ、既存店売上高は通期で前年同期比0.4%の減少を見込む一方、全店売上高では新規出店3店舗による増加を見込んでおります。

営業利益、経常利益につきましては、売上高増加と店舗設備の省エネ化推進による費用削減効果を見込んでおります。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、経常利益の増加に加え、法人税法等の改正による税金費用の減少で、前年同期に比べ増加を見込んでおります。

【通期の業績予想に対する第3四半期の実績の進捗状況等について】

第3四半期の実績値は、当初の想定を上回っておりますが、現時点で業績予想の修正はありません。

その理由につきましては、第4四半期連結会計期間における以下の要因によるものであります。

- ・当社グループが多く出店している降雪地帯において、天候状況により除雪費用が一定程度見込まれること。
- ・また、このような地域特性から、配送費や光熱費が他の四半期に比べて多く発生することや、厳冬期以後の店舗設備の修繕費用発生が見込まれること。
- ・店舗改装を追加実施する可能性があること。
- ・次期以降の収益性向上につながる機器の更新や設備の営繕を予定していること。
- ・各資産グループ（店舗）の営業活動から生じる損益等の年度末実績に基づき、固定資産の減損に係る再評価を行うこと。
- ・税制改正の内容が税効果会計に影響を及ぼすことが見込まれること。

なお、通期の業績予想に対する第3四半期の実績の進捗状況は以下のとおりであります。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
通期予想 (A)	218,000	6,800	6,900	3,800	162.79
第3四半期実績 (B)	168,941	7,158	7,204	4,696	201.18
進捗率 (%) (B)/(A)	77.5	105.3	104.4	123.6	123.6

売上高が好調に推移している要因につきましては、以下のとおりであると考えております。

- ・近年出店店舗が、概ね当初の予定を上回る実績を確保できたこと。
- ・生鮮相場や為替相場の影響で1品単価が上昇したこと。
- ・当社グループの規模を活かした商品調達や品ぞろえの優位性が確保できたこと。
- ・当社ならではの名物商品やプライベートブランド商品の開発、各種サービスの充実により、当社グループ店舗のファンとなっていただけのお客が増えたこと。
- ・店舗における週間管理の仕組みが良好に運用され、売場管理や不要なロス削減が維持されていること。
- ・以上により、既存店売上高が前年同期比102.0%と堅調な結果となったこと。

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益が好調に推移している要因につきましては、以下のとおりであると考えております。

- ・売上高及び売上総利益が、当初の想定を上回ったこと。
- ・各種諸経費について、近年取り組んでいる、当社グループの全体最適の視点に立った削減策や効率的な活用が進んだこと。
- ・電気料金単価が当初の想定を下回ったことに加え、環境維持活動と連動した省エネ対策が進んだこと。

【注意事項】

この四半期決算短信に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は既知及び未知のリスク、不確実性及びその他様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、当社グループが認識している事業等のリスクにつきましては、当社の有価証券報告書をご参照ください。

2 サマリー情報（注記事項）に関する情報

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当四半期連結累計期間において、連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

当四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表規則に規定する「四半期連結財務諸表作成に特有の会計処理」の適用はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

企業結合に関する会計基準等の適用

1 当該会計基準等の名称

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第31号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」といいます。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第32号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」といいます。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」といいます。）

2 当該会計方針の変更の内容

第1四半期連結会計期間から、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。

また、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。

加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。

当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載する方法に変更しております。

3 当該経過措置に従って会計処理を行った旨及び当該経過措置の概要

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項（4）、連結会計基準第44-5項（4）及び事業分離等会計基準第57-4項（4）に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

また、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しについては、企業結合会計基準第58-2項（1）なお書き、四半期財務諸表に関する会計基準第38-13項及び同適用指針第81-7項に定める経過的な扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合から適用しております。

なお、四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結財務諸表等におけるキャッシュ・フロー計算書の作成に関する実務指針第36-4項に定める経過的な取扱いに従っており、比較情報の組替えは行っておりません。

4 当該会計方針の変更による影響額

従来の会計処理の方法によった場合に比べ、当該会計基準等を適用することによる四半期連結財務諸表に対する影響額はあります。

3 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,212	13,376
受取手形及び売掛金	1,070	1,487
リース投資資産	1,675	1,490
商品及び製品	4,615	5,464
仕掛品	10	38
原材料及び貯蔵品	266	313
未収還付法人税等	193	256
繰延税金資産	899	519
その他	3,381	3,249
貸倒引当金	△14	△16
流動資産合計	24,311	26,180
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	24,449	25,959
機械装置及び運搬具（純額）	451	407
土地	20,649	20,859
リース資産（純額）	3,055	2,781
建設仮勘定	781	1,146
その他（純額）	2,033	2,280
有形固定資産合計	51,420	53,435
無形固定資産		
のれん	33	26
その他	1,534	1,781
無形固定資産合計	1,567	1,808
投資その他の資産		
投資有価証券	3,787	3,911
長期貸付金	30	25
繰延税金資産	2,022	2,003
敷金及び保証金	8,274	7,948
その他	1,175	1,202
貸倒引当金	△34	△34
投資その他の資産合計	15,256	15,058
固定資産合計	68,245	70,301
資産合計	92,557	96,482

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	13,392	18,613
短期借入金	—	800
1年内返済予定の長期借入金	4,906	3,892
リース債務	525	503
未払法人税等	1,478	921
ポイント引当金	67	75
役員賞与引当金	229	239
賞与引当金	1,695	739
その他	6,947	6,601
流動負債合計	29,242	32,387
固定負債		
長期借入金	6,865	4,045
リース債務	3,887	3,523
資産除去債務	4,747	4,889
長期預り保証金	5,177	5,174
役員退職慰労引当金	30	33
退職給付に係る負債	404	397
その他	369	359
固定負債合計	21,481	18,423
負債合計	50,724	50,810
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,159	3,159
資本剰余金	15,749	15,749
利益剰余金	21,259	25,021
自己株式	△55	△56
株主資本合計	40,112	43,874
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,634	1,725
退職給付に係る調整累計額	84	71
その他の包括利益累計額合計	1,719	1,797
純資産合計	41,832	45,671
負債純資産合計	92,557	96,482

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	160,554	168,941
売上原価	117,167	122,889
売上総利益	43,387	46,052
販売費及び一般管理費		
ポイント引当金繰入額	66	75
従業員給料	6,064	6,142
雑給	10,235	10,657
役員賞与引当金繰入額	191	239
賞与	1,552	1,517
賞与引当金繰入額	694	692
役員退職慰労引当金繰入額	3	3
退職給付費用	207	208
地代家賃	3,767	3,827
減価償却費	2,547	2,598
のれん償却額	7	7
貸倒引当金繰入額	4	6
その他	12,744	12,918
販売費及び一般管理費合計	38,087	38,894
営業利益	5,299	7,158
営業外収益		
受取利息	60	55
受取配当金	34	38
補助金収入	37	21
その他	41	40
営業外収益合計	173	156
営業外費用		
支払利息	117	97
その他	16	12
営業外費用合計	134	110
経常利益	5,338	7,204
特別利益		
固定資産売却益	5	5
特別利益合計	5	5
特別損失		
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	3	18
減損損失	7	17
特別損失合計	10	35
税金等調整前四半期純利益	5,334	7,173
法人税、住民税及び事業税	1,698	2,115
法人税等調整額	392	361
法人税等合計	2,090	2,477
四半期純利益	3,243	4,696
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,243	4,696

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	3,243	4,696
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	330	90
退職給付に係る調整額	△14	△12
その他の包括利益合計	316	77
四半期包括利益	3,560	4,774
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,560	4,774
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,334	7,173
減価償却費	2,667	2,717
減損損失	7	17
のれん償却額	7	7
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	4	2
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	8	8
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△6	10
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△664	△956
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△0	3
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△22	△25
受取利息及び受取配当金	△94	△93
支払利息	117	97
固定資産売却損益 (△は益)	△5	△4
固定資産除却損	3	18
売上債権の増減額 (△は増加)	△309	△417
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△956	△923
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,753	5,220
未払又は未収消費税等の増減額	880	△941
リース投資資産の増減額 (△は増加)	194	185
その他	815	627
小計	12,731	12,725
利息及び配当金の受取額	39	42
利息の支払額	△104	△83
法人税等の支払額	△2,999	△2,724
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,667	9,959
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△0	△0
有形固定資産の取得による支出	△5,290	△4,671
有形固定資産の売却による収入	5	171
無形固定資産の取得による支出	△165	△323
投資有価証券の取得による支出	△35	—
投資有価証券の売却による収入	—	10
貸付けによる支出	△6	△8
貸付金の回収による収入	14	12
その他	267	375
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,210	△4,433
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	4,480	800
長期借入れによる収入	1,000	—
長期借入金の返済による支出	△3,254	△3,832
社債の償還による支出	△1,000	—
リース債務の返済による支出	△403	△396
自己株式の取得による支出	△0	△1
配当金の支払額	△999	△931
財務活動によるキャッシュ・フロー	△176	△4,362
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,279	1,163
現金及び現金同等物の期首残高	10,944	12,210
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,224	13,374

(4) 継続企業の前提に関する事項

当第3四半期連結会計期間（自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日）
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）
該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

【セグメント情報】

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日）

	報告セグメント		その他 (百万円)	合計 (百万円)
	スーパー マーケット (百万円)	計 (百万円)		
売上高				
外部顧客に対する売上高	159,274	159,274	1,280	160,554
セグメント間の内部売上高又は振替高	107	107	3,590	3,697
合計	159,381	159,381	4,871	164,252
セグメント利益	4,895	4,895	498	5,394

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、清掃事業、印刷事業、運輸事業、自動車販売事業等を含んでおります。

当第3四半期連結累計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）

	報告セグメント		その他 (百万円)	合計 (百万円)
	スーパー マーケット (百万円)	計 (百万円)		
売上高				
外部顧客に対する売上高	167,709	167,709	1,232	168,941
セグメント間の内部売上高又は振替高	117	117	3,622	3,740
合計	167,827	167,827	4,855	172,682
セグメント利益	6,728	6,728	450	7,178

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、清掃事業、印刷事業、運輸事業、自動車販売事業等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

利益	前第3四半期累計期間	当第3四半期累計期間
報告セグメント合計	4,895百万円	6,728百万円
「その他」の区分の利益	498百万円	450百万円
セグメント間取引消去	△24百万円	△3百万円
全社費用	△509百万円	△558百万円
その他の調整額	440百万円	541百万円
四半期連結損益計算書の営業利益	5,299百万円	7,158百万円

(注) 1 セグメント間取引消去は、主にセグメント間の固定資産売買によって生じた未実現利益に係る調整であります。

2 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社（持株会社である当社）に係るものであります。

3 その他調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社（持株会社である当社）に対する経営指導料支払額の消去であります。

3 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な影響を及ぼすものではありません。

4 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

① 販売実績

(単位 百万円、%)

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)		前年同期比			
	売上高	構成比	売上高	構成比	金額	比率		
スーパーマーケット	生鮮食品	青果	20,609	12.5	22,381	13.0	1,771	108.6
		精肉	18,539	11.3	19,387	11.2	848	104.6
		水産	16,449	10.0	17,063	9.9	613	103.7
		惣菜	14,404	8.8	15,679	9.1	1,275	108.9
		計	70,002	42.6	74,512	43.2	4,509	106.4
	一般食品	デイリー	30,554	18.6	31,999	18.5	1,445	104.7
		加工食品	42,666	26.0	44,448	25.7	1,782	104.2
		インスタアペーカリー	2,109	1.3	2,365	1.4	255	112.1
		計	75,329	45.9	78,813	45.6	3,483	104.6
	住居	5,984	3.6	6,196	3.6	211	103.5	
	衣料品	134	0.1	122	0.1	△12	91.0	
	その他	478	0.3	413	0.2	△64	86.5	
	営業収入	7,343	4.5	7,651	4.4	307	104.2	
セグメント間の内部売上高又は振替高	107	0.0	117	0.1	10	109.5		
	小計	159,381	97.0	167,827	97.2	8,445	105.3	
その他	外部顧客に対する売上高	1,280	0.8	1,232	0.7	△48	96.2	
	セグメント間の内部売上高又は振替高	3,590	2.2	3,622	2.1	32	100.9	
	小計	4,871	3.0	4,855	2.8	△15	99.7	
	合計	164,252	100.0	172,682	100.0	8,429	105.1	

② 仕入実績

(単位 百万円、%)

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)		前年同期比			
	仕入高	構成比	仕入高	構成比	金額	比率		
スーパーマーケット	生鮮食品	青果	16,389	13.8	17,894	14.4	1,504	109.2
		精肉	13,871	11.7	14,495	11.7	624	104.5
		水産	11,951	10.1	12,290	9.9	338	102.8
		惣菜	8,687	7.3	9,372	7.5	684	107.9
		計	50,900	42.9	54,052	43.5	3,152	106.2
	一般食品	デイリー	22,837	19.2	23,924	19.2	1,086	104.8
		加工食品	34,743	29.3	35,946	28.9	1,203	103.5
		インスタアペーカリー	948	0.8	1,079	0.9	130	113.8
		計	58,529	49.3	60,950	49.0	2,420	104.1
	住居	4,798	4.0	4,902	3.9	103	102.2	
	衣料品	103	0.1	94	0.1	△9	91.3	
	その他	205	0.2	164	0.1	△41	79.9	
	リース原価	194	0.2	185	0.2	△8	95.4	
セグメント間の内部仕入高又は振替高	259	0.2	258	0.2	△1	99.5		
	小計	114,990	96.9	120,607	97.0	5,616	104.9	
その他	外部取引先からの仕入高	3,343	2.8	3,389	2.7	45	101.4	
	セグメント間の内部仕入高又は振替高	337	0.3	338	0.3	1	100.3	
	小計	3,681	3.1	3,728	3.0	46	101.3	
	合計	118,672	100.0	124,335	100.0	5,663	104.8	

(注) セグメント間の内部取引高を含めて表示しており、消費税等は含まれておりません。